

研修 評価

研修名	看護記録と法的責任（Ⅰ）・（Ⅱ）				
領 域	医療・看護安全領域	会場	看護研修センター	受講料	会 員：3,080 円 非会員：9,240 円
対 象	学習段階レベル（Ⅱ～Ⅲ） （Ⅰ）募集数(60 人)応募数(75 人)参加数(69 人)会員数(67 人)非会員数(2 人) （Ⅱ）募集数(60 人)応募数(59 人)参加数(57 人)会員数(54 人)非会員数(3 人)				
日 時	令和 6 年 9 月 18 日（水）・19 日（木） 10：00 ～16：00				
ねらい（目標）	1. 看護記録の法的意義を学び、日々の看護記録に活かすことができる				
講 師	稲葉一人氏 いなば法律事務所 代表弁護士				
内容・方法	○講義内容：1. 記録に関する問いと疑問の共有 2. 記録と事実との関係 3. 同意書の効果 リスクの程度を正しく理解する 4. 記録の開示 5. 記録の訂正・追記 6. 記録の秘匿 応召義務違反、個人情報保護法と守秘義務 難渋するクレーマー対応、外国人対応について （医行為と看護行為、オンライン診療など） 7. 記録に関する各自の工夫を共有する 8. 最近の大事な動き （1）医療事故調査における記録 ○研修方法：講義および、個人ワーク、 個人ワークで出された課題について、講師よりコメント、解説。				
結 果	○参加者数 （Ⅰ）69 名 115% （Ⅱ）57 名 95% 【達成・未達成】 ○アンケート結果（回収率：（Ⅰ）84%、（Ⅱ）70%） ・理解度 （Ⅰ）96.6% （Ⅱ）100% 【達成・未達成】 ・自己課題の達成度（Ⅰ）87.9% （Ⅱ）97.5% 【達成・未達成】 ○受講者の意見 ・全体的な意見として「わかりやすく、事例もたくさんあり面白かった」や記録の修正や訂正について再認識できたといった肯定的な意見があった一方で、「記録の部分の質問についてもっと時間をとって欲しかった」「資料に虐待があったが、講義で話がなかったので聞きたかった」「講義内容にボリュームがあり、時間が足りない」などの声があった。				
評価基準： ①参加数が募集数の70%以上 ②研修内容の理解度（できた、ほぼできた）80%以上 ③自己課題の達成度又は研修目標（知識技術）の習得度（できた、ほぼできた）80%以上 ④アンケートの意見					
評 価・総 括	○目標達成の評価：【研修会の目標は達成した】・達成しなかった】 ・テーマ・目標・企画内容・時間配分など：受講希望者が 100 名以上となっており研修受講のニーズは高い。1 日での実施は難しいため、継続して 2 日間の開催が妥当と思われる。 ○総括：研修会開催の良かった点は、参加者の看護記録の工夫を記載し、形にしたものを、受講者間で共有できたこと。臨床倫理の話題が大変役立った。 <改善点、今後の継続について> ・講義の中で参加者から出した記録の工夫と質問に対しての自部署の問題解決になる返答の時間を十分に設けてもらいたい。 ・内容が多く、レジメにあったすべての講義を聞くことができず残念だった。 ○次年度も 2 日間開催を予定する。				
課 題	・特になし				
担当者	医療・看護安全委員				

